総　括　評　価　表

重点課題 1
「学習指導の改善と確かな学力の向上」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	評定	総合評価	総合評価（評定）	
（全体レベル） 読解力を育む授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、確かな学力の向上を図る。 （下位組織レベル） ①基礎学力、受験学力の向上 ②家庭学習の習慣化と家庭との連携 ③教科指導力の向上と授業の質的転換 ④読書習慣の定着化、読書内容の向上 ⑤進路意識の高揚	評価指標 ①進研模試３教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較　70%以上 （70.0%目標→74.2%）	評価指標による達成度 ①進研模試３教科 1年7月→2年11月 過回対比偏差値45.0以上の人数比較　98.4%	A	評定 B	B	
	②１日の平均学習時間　1.0 時間未満の生徒数 60人以下(60人以下目標→111人) 学年別進路保護者会出席率　55%以上 （55%目標→53.4%）	②１日の平均学習時間　1.0 時間未満の生徒数　141人 60人以下(60人以下目標→111人) 学年別進路保護者会出席率　54.6% （３学年　81人、　２学年　94人、　１学年　71人）	C			
	③生徒による授業評価「理解が深まっている」 生徒割合　85%以上(85%目標→82.6%) 「興味・関心が高まっている」生徒80%以上 （80%目標→73.4%）	③生徒による授業についての評価 「理解が深まっている」　90.6% 「興味・関心が高まっている」　82.9%	A			
	④図書貸出冊数一人 7.5冊以上 （7.5冊以上目標→3.32冊） 生徒一人あたりの入館回数 10回以上 （10回以上目標→6.60回）	④図書貸出冊数一人　3.16冊 生徒一人あたりの入館回数　6.22回	C			
	⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合 85%以上（85%目標→84.8%） 進路決定率　100%(100%目標→98.7%)	⑤進路に対する高い意欲を有する生徒の割合　84.8% 進路決定率　　%（３月末までに記入）	B			
	活動計画 ①-1 課題解決への自主性確保（宿題との相違性）の効果的な実施(各教科) ①-2 補習や個別指導の効果的な実施と学習環境整備(進路) ①-3 基礎的・基本的知識等の定着(各教科)	活動計画の実施状況 ①-1 課題をオンラインで配信するなど、生徒にとって取り組みやすい環境を作っている。しかし、家庭学習の習慣化と学習内容の確実な定着については二極化がみられる。 ①-2 早朝、放課後、夏季、冬季（３年のみ）の補習については、可能な限り組織的・計画的に実施した。３年生については、金曜日の放課後に１時間の補習時間を確保していたが、模擬試験との関係もあり、昨年度より回数は減少している。その他、小論文、面接集団討論等の指導だけでなく、個別指導にも組織的・計画的に実施した。 ①-3 授業の初めに前時の復習をさせたり、小テストの実施や復習ノートの提出をさせたりと各科目で工夫していた。		所見 １月の学習時間調査によると、３学年平均の学習時間は増加している。２極化している生徒の中には、課外活動に時間を費やしている生徒もいるのではと推測すれば、現在の総合型選抜等の流れに適しているともいえる。とはいえ、基礎学力の定着は必須であるため、部活動・家庭とも連携して、家庭での学習へとつなぐことが必要不可欠だ。 進路保護者会に関しては、その情報が必要なときでないと、保護者は参加しにくいと思われる。保護者から質問や問い合わせの電話が来たら、個別に対応してくださっているが、各担任の負担はかなり大きい。 一斉指導が難しい上に受験の仕組みも複雑化している。先生方が少しでも勤務時間内で終わらせることができる、そして生徒にとっても「伴走してくれている」と思える進路指導のために何ができるか、さらに考えたい。	学校関係者の意見 基礎的・基本的知識等の定着については、組織的・計画的に実施された結果が現れ、評価指標を大幅に上回っている。時間の制約がある中で個別指導にも組織的に取り組まれており、今後の生徒の学力向上に繋がるものと確信している。	
	②-1 学習時間記録の効果的な活用(学年団) ②-2 復習を前提とした授業展開の工夫(各教科) ②-3 課題の効果的な提供(各教科) ②-4 学年別進路保護者会での効果的な情報提供(進路、学年団)	②-1 「生活実態調査」を実施して学習状況を把握した。 ②-2 生徒に復習をどのようにさせるかについて、各科目担任が生徒に応じて実施していた。 ②-3 「解答を写して提出」することのないよう、課題の内容や提供方法を工夫している。その課題をしてほしい生徒が自ら取りに来るためにどのようなことが必要かを継続して考える。 ②-4 参加してくださった保護者には、大手の企業と本校職員から現在の進学や就職の状況を伝えることができた。			学習習慣の定着にばらつきが見られ、全体的な学力向上を図るためには、家庭学習の支援体制や復習の強化が求められる。最近の傾向として、SNSの使用時間との関係が深くなっている。生徒の自律的な学習を促進し、さらなる成績向上を目指すため、引き続き、きめ細やかな指導と家庭や地域と連携した学習環境の整備が重要だと思う。	②年度初めに各科目担任が、授業や模試等の復習の仕方を必ず説明すると同時にそれを反映させた授業を展開する。家庭でのスマートフォンの利用について、生徒だけでなく保護者にも啓発を頻繁に行い、家庭での学習環境整備を依頼する。
	③-1 授業公開、研究授業の活性化(教務、企画総務) ③-2 生徒による授業評価の工夫(各教科、企画総務) ③-3 カリキュラムマネジメントが機能している授業展開(全教員)	③-1 教員相互の授業や研究授業を参観したことで、授業方法のヒントを得たり、生徒の違う一面を観察できたりと有意義であった。 ③-2 学校評価アンケートの他に、各科目担任が生徒による授業評価を実施し、授業改善へとつなげていた。 ③-3 授業の満足度は高いので、それを学力へとつなげられることが今後の課題である。			基礎学力および進路意識の向上において、模試の成績や授業満足度などの指標で一定の成果を上げている。特に進研模試の偏差値向上率は目標を上回り、授業に対する生徒の関心や理解度も高い評価を受けている。	
	④-1 魅力ある図書館づくり(情報・図書) ④-2 学習と読書の関連性強化(情報・図書、全教員)	④-1 渡り廊下での移動図書館やスタンプラリーなどさまざまな工夫を行っている。また、授業で必要な書籍等の問い合わせに即座に応じてくれるなど、教員にとっても魅力ある図書館となっている。 ④-2 書籍ではないが新聞切り抜き隊の活動が、学習につながっていると推測できる。実際３年生は進路室にある新聞記事をまとめたものをよく読んでいた。			図書館については、教室から離れた場所に位置しているなど、生徒がすぐに立ち寄れない制約があるが、渡り廊下での「移動図書館」の設置など、今後の貸出冊数増加に向けた取組に期待する。	④大学入試での問題として使われた本などを紹介するとともに、全員の先生方にも知っていただくために、研修用プリントを作り配付する。

	⑤-1 進路情報の収集と効果的な提供(進路) ⑤-2 進路ガイダンス及び進路保護者会（説明会、講演会等）の充実(進路) ⑤-3 就職希望生徒への指導の強化（進路）	⑤-1 先生方から要望された情報にはできるだけ迅速に提供できるよう、情報の収集を行ったり、長けている先生に伺ったりして提供した。生徒にはさまざまな課外活動やオープンキャンパス、進路ガイダンスの案内をした。 ⑤-2 12/17　１・２年生を対象に進路ガイダンスを実施した。オンラインも含め国公立大学を多くし、学問内容について情報を得た。保護者に対しては学年別進路保護者会の他に、PTA総会の時にも講演会を実施した。 ⑤-3 進路ガイダンスの際には、就職希望生対象の講座を開催した。３年生へは履歴書作成や面接練習を通して、社会人としての基本的な能力を培った。		進路保護者会の出席率が目標に達しなかった点は家庭との連携強化が必要と思う。 オープンスクールの積極的な参加を呼びかけたり、今年度より大学見学バスツアーを再企画したりした取組は評価できる。	⑤進路保護者会等は、内容をより具体的に提示し、早めに案内を出す。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった

重点課題 2
「支えあう仲間づくりと人権教育の推進」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 学校教育全体の中で、差別を見逃さない人権感覚と、自他を大切にする態度を育み、人権尊重の精神の涵養を図る。 （下位組織レベル） ①人権が尊重される人間関係づくり、仲間づくり ②人権学習、啓発活動の充実 ③教職員研修の充実 ④家庭や関係諸機関等との積極的な連携 ⑤特別支援教育の充実	①人権学習ホームルーム活動満足度90％以上（90％以上目標→96％）	①人権学習ホームルーム活動満足度　90.6％	A	評定 B	B	
	②人権の日及び人権学習ホームルーム活動等で扱う個別人権課題　10課題以上（10課題以上目標→11課題）	②人権の日及び人権学習ホームルーム活動等で扱った個別人権課題　15課題(重複した課題を除く) 人権の日では、北朝鮮による日本人拉致問題、災害時における人権問題、外国人差別、男女差別、子どもの権利・人権、性的マイノリティ、障がい者、高齢者、インターネット上の人権侵害、戦争と人権などの人権課題を、人権委員が主体的に取り上げ、全生徒に対して啓発した。 人権学習ホームルーム活動では、同和問題(就職差別・結婚差別)、リフレーミング、デートＤＶ、アイヌの人々、ディスレクシア(読み書き困難)などの人権課題を取り上げた。	A			
	③校内外研究大会・研修会(地域研修含む)参加率　全職員2回以上（全職員2回以上→全職員2回以上）	③校内外研究大会・研修会(地域研修含む)参加率 全職員2回以上 全職員参加の人権教育講演会、人権問題啓発映画会（3／13予定）を実施（予定を含む）した。また、本校生徒による人権問題意見発表会も貴重な研修機会となった。なお、今年度は、阿波市人権教育研究大会高等学校部会を本校で開催した。	A			
	④人権関連行事の「さくら連絡網」での発信　年10回以上目標　（新規）	④今年度も、著作権問題の解決ができなかったため、発信できなかった。	D			④生徒の感想や意見を中心とした発信を行う。
	⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度　90％以上　（90％以上目標→96％）	⑤特別支援教育相談活動に係わる職員の満足度　93.4％	A			
	活動計画	活動計画の実施状況		所見	学校関係者の意見	
	①-1 落ち着いて学習できる環境作りの促進(全職) ①-2 生活実態調査の実施や個人面談等でいじめの実態の把握および対応(人権、生徒指導)	①-1 全ての教科及び人権学習において、協働学習を取り入れた。 ①-2 生活実態調査や教員の観察、生徒からの申し出などから、生徒が抱える悩みを丁寧に聞き取り、声かけを行った。		特に人権学習ホームルーム活動実施前に、担当教員を中心に学年でよく話し合い、生徒の実態に合った、昨年度とは異なる主題を設定した場合もあった。また、活動後には指導案の検証を行っている姿も度々見られた。 こうした教員の努力もあり、阿波市人権教育研究大会高等学校部会の１年公開授業では、どのクラスにおいても生徒が積極的に話し合う姿が見られた。 なお、人権関連行事の発信については、生徒の感想や学びを中心としたものとすることで、来年度は実現させることにしている。 特別支援や教育相談については、校内で関係者会を開いて情報を	人権意識の向上は重要な課題であるが、本当の意味での人との関わりが減った今の社会で、人権学習ホームルーム活動の満足度が90.6％はすごいと感じる。 多種多様化する課題に対し、先生と生徒、学校全体で人権意識を育むため、様々な学習を取り入れ、多くの人権研修に参加された事は素晴らしいと感じる。	①教員による生徒の観察や声かけなどをさらに増やす。 ②生徒の実態に合った主題の設定を継続する。
	②-1 個別人権課題「同和問題」ホームルーム活動の計画的・継続的な実施(人権) ②-2 人権教育講演会、人権問題意見発表会及び人権問題啓発映画会の実施(人権) ②-3 生徒の主体的な啓発（交流）活動の企画・実施、成果等の発信(人権)	②-1 1年生では、中学校までに学習してきたことと結びつけて同和問題について学習した。3年生では、就職差別・結婚差別とも、同和問題をはじめさまざまな視点から差別を見抜く視点を学習した。 ②-2 人権教育講演会（6/12「私からはじめる 私たちの多様性社会」三木 幸美 氏)、人権問題意見発表会（10/29「無自覚な差別」「らしさの押しつけ」「たとえ姿が見えなくても」「いつもの場所を違った視点で考える」)、人権問題啓発映画会（3/13予定）を実施（予定を含む）した。 ②-3 人権委員が主体的に取り上げた人権課題について、人権の日には全生徒に啓発し、阿波高祭じんけん展では、その成果を全生徒・全来校者に発信した。				
	③-1 指導方法の工夫・改善を図る研修会の実施(人権) ③-2 各種研究大会、講演会への積極的な参加と報告(人権) ③-3 生徒と学ぶ研修会の実施(人権) ③-4 地域との連携(人権)	③-1 人権学習ホームルーム活動の実施前に、学年研修会、研究授業や研究協議を実施して、活発な意見交換を行った。 ③-2 県人研大会・高特人研大会には複数の教員が参加し、四人研大会には人権教育主事が参加した。なお、今年度は、阿波市人権教育研究大会高等学校部会を本校で開催し、1年の公開授業を実施した。 ③-3 2年生対象のデートＤＶ防止セミナー（11／12 柳谷 和美 氏）は、教員が生徒ともともに学ぶ貴重な機会となった。 ③-4 新採用・転入者対象研修会を柿原ふれあい会館で実施し、地域の方から地域の歴史についてお話を伺った。			阿波市人権教育研究大会の開催を通じて地域連携が強化され、教職員の研修参加も積極的に行われている。 人権学習ホームルーム活動や講演会、意見発表会など、人権教育に積極的に取り組んでおり、校内外での研修会を通して研修を積み、先生の人権に対する姿勢(差別を見抜く目を持つ）が重要になると思う。	③教員の知識の更新に資する研修を取り入れる。

	④-1 保護者への啓発活動の実施(人権) ④-2 地域との連携(人権)	④-1 ＰＴＡ役員会やＰＴＡ総会において、また、入学式直後に新入生保護者に対して、啓発活動を実施した。 ④-2 柿原ふれあい会館祭に、じんけん部員2人、有志の生徒2人、人権教育主事が参加し、運営の一端を担った。	共有するとともに、スクールカウンセラーの配置により、生徒・保護者・教職員の相談・解決がスムーズに行われた。	情報発信の部分で未達成の指標が見られたため、今後はSNSやデジタルメディアを活用した発信力強化が必要だと思う。	④保護者への啓発方法を工夫し、啓発回数を増やす。
	⑤-1 特別支援体制の確立(教育相談) ⑤-2 相談活動及び専門機関等へのコーディネイト(教育相談) ⑤-3 教職員の生徒理解、支援能力の向上(教育相談)	⑤-1 担任、学年、保健室、教育相談担当が得た情報を共有し、必要に応じて関係者会を開くなど、特別支援体制の確立に努めた。 ⑤-2 来校するスクールカウンセラーの相談活動を周知するとともに、ライフサポーター派遣やLINE相談、電話相談、大学の相談室の案内を行った。 ⑤-3 適切な配慮や支援方法についての助言・援助を、必要に応じてスクールカウンセラーから教職員が受けることで、生徒理解、支援能力の向上に努めた。		特別支援教育においても、職員間の情報共有が円滑に行われており、生徒の相談体制が整っている。今後は、こうした活動をさらに広げ、地域や保護者との連携を強化することで、より包括的な人権教育の推進が期待される。	⑤必要に応じて、校外の関係機関との連携を深める。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった

重点課題 3
「自己実現と社会貢献意識を高めるキャリア教育の推進」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
（全体レベル） 自己の価値観を形成させながら進むべき道を描けるようにさせるとともに、地域社会に貢献しようとする意欲を高める。 （下位組織レベル） ①「キャリア・パスポート」を核としたキャリア教育のプログラムの充実 ②地元自治体や企業と連携した「地域探究活動」の推進 ③主権者意識を高める教育の推進	評価指標 ①スクール・ポリシーを基にした、キャリア教育における基礎的・汎用的能力に関する４つの能力について、肯定的回答が75%以上 （70%以上→71%）	評価指標による達成度 ①・自主的に調べ物や取材を行い、興味・関心のあるものを見つけることができた。・・・71.0% ・自分が設定した目標に対して、 計画を立てて行動することができた。・・・59.5% ・自分とは異なる意見や価値を尊重することができた・・・92.9% ・自分の将来についての見通し（将来こういう風でありたい）を持っている・・・80.5%	A	評定 A	A	①生徒が自らの成長を実感できる活動を展開し、それを振り返る中で自らのキャリア・プランを意識し、進路実現につなげる経路を創出する。 ②探究活動の連携先を拡充し、「解決策」を実践する場や地域人材との一層の連携を拡充する。
	②社会的課題に主体的に向き合い、社会に貢献しようとする意欲について、肯定的回答が85%以上 （70%以上→82.7%）	②「総合的な探究の時間」等のキャリア教育に意欲的に取り組むことができた・・・88.8%	A			
	③主権者教育に関する活動をとおして、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒が９０%以上 （90%以上→96.6%）	③政治への関心が高まった生徒は97.8%で目標を達成することができた。	A			
	活動計画 ①-1 「キャリア・パスポート」に関する内容の授業時間数を年間６時間とする(AWA未来創造) ①-2 大学や企業との連携をはかり、アカデミックインターンシップを実施する　（総探）	活動計画の実施状況 ①-1 ホームルーム活動や「総合的な探究の時間」に設定し、予定どおり実施した。 ①-2 従来より参加している徳島大学主催遺伝子組み換え実験や徳島県立総合教育センター主催「科学への誘い」を始め、県内外の大学が主催する講義やワークショップ等へ多くの生徒が参加した。また、校内においても、地域づくりに長年携わり、本校学校運営協議会委員を務められる井原まゆみ様や妹尾裕介様、四国大学准教授の鈴鹿剛先生などにお願いして、キャリア教育講演会等を実施し、学びへの意欲を高めることができた。		所見 ２年生の「総合的な探究の時間」では、引き続き阿波市や上板町との連携を図り、また法人や地域の活動家の方とも連携を図りながら取り組んだ。その結果、地域の課題を認識し、その解決に向かう姿勢とともに、解決策を実践しようする傾向が一層顕著になった。 主権者教育を積極的に行うことで、地域社会の一員であるとの自覚も高まった。	学校関係者の意見 阿波高校では地域連携を通じた実践的な探究活動が顕著な成果を上げている。阿波市や上板町との共同事業や、地域課題に取り組むプログラムを通じて、生徒の自主性が高まり、課題解決型学習が効果を発揮していると思う。 目標を下回った項目があり、個別の指導計画が必要とされている。企業や大学との連携で、より多様なキャリア選択肢を提供し、主体性のある進路選択を促す仕組みのさらなる強化が課題だと思う。	①-１継続して実施する。 ①-２継続して実施する。
	② 地元自治体や企業、ＮＰＯとの連携を推進し、課題研究の取組の発展をはかる（総探）	②「総合的な探究の時間」において、阿波市の小学校で校外研修を行い、上板町の技の館での国際交流イベントにも参加した。さらに、阿波市役所の職員による講義を学校で実施するなど、阿波市と上板町との連携を推進し、課題研究の取組の発展を図ることができた。また、ＮＰＯ法人あわ・みらい創生社、コワーキングスペース「awake!」、大塚製薬、ローソン等の（地元）法人のご指導の下で、地域課題探究活動の実践性の大幅な伸長を図ることができた。			「総合的な探究の時間」では、地元自治体に加えて、地域づくり団体やＮＰＯ、企業とのコラボなど、地域の課題を自分のこととして捉え、問題解決に向けた取組を実践できているように感じた。生徒達の視野を広げることで自発的な活動に繋がると思う。 上板町のマップを作っていただき、地域を知り、また発信する活動ができていると感じた。	②研究テーマの継続研究に取り組むとともに、理論と実践との往還について、アカデミシャンを中心とした外部メンターの積極的な登用による指導を実施する。
	③-1 主権者教育教職員研修会の実施(公民科) ③-2 主権者教育に関する学校行事やホームルーム活動を年間８回実施(公民科) ③-3 全体計画を作成し、その実施において教科、領域間の連携をはかる(全教員)	③-1 4月5日に予定通り実施した。 ③-2 ２年生全員を対象に12月13日に選挙スクールを実施した。また、２年生の「総合的な探究の時間」では、主権者として地域の課題について考える取り組みを年間を通して８回以上実施した。 ③-3 全体計画を作成することで、主権者教育における学校全体の目標の明確化と教職員間における目標・計画の共通理解を行い、公民科や他教科、「総合的な探究の時間」等との連携をはかることができた。			選挙スクールや地域の課題探究活動が高評価を得ており、生徒の政治や社会への関心が向上している。 主権者教育による政治や選挙に対する意識の高揚、地域との連携など非常に評価できると思う。	③-1 継続して実施する。 ③-2、3 各課・各教科との連携を更に深化する。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった

重点課題 4
「基本的生活習慣の確立と規範意識の育成」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
			評定	総合評価		
（全体レベル） 生徒理解の深化と信頼関係を基盤に、生徒自らが現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。安全・安心な学校生活と、違いを認め合える人間関係づくりを推進する。また、よりよい校風を築いていくために、学校のために何ができるかを考えさせる。	評価指標 ①自分から挨拶ができている割合　90%以上 （90%以上→91%） 過失割合の高い交通事故発生件数　3件以下 （5件以下→2件） ヘルメットの着用率　25%	評価指標による達成度 ①自分から挨拶ができている割合　89% 過失割合の高い交通事故発生件数　２件 ヘルメットの着用率　18%	B	評定 A	A	①挨拶を継続しつつ、コミュニケーションのスキルを高める方策を考える。ヘルメットの着用率を、高める指標を工夫する。
	②担任との個別面談回数　３回以上 （３目標→３） スクールカウンセラーへの相談件数　50件以上	②教育相談週間実施数　３回 スクールカウンセラーへの相談件数　85件	A			
	③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施　２回 （１回→１回） いじめの認知件数に対する解消率　100%	③いじめの未然防止に関する生徒指導教職員研修の実施２回 いじめの認知件数に対する解消率　100%	A			③指標の見直しを検討する。経過観察を継続する。
（下位組織レベル） ①社会的な自立に向けて、基本的な生活習慣の確立や、規範意識の向上を目指した教育を推進する。 ②教育相談体制の充実を図り、すべての生徒が安心して学校生活を送れる学校作りを推進する。 ③「学校いじめ基本方針」の点検・見直しを図り、組織的にいじめの未然防止に努める。	活動計画 ①-1 生徒指導全校集会の実施(生指) ①-2 生活改善週間の実施と改善指導の徹底(生指) ①-3 登下校指導や街頭指導の実施(生指) ①-4 自転車・バイク点検の実施と講習会の実施(生指) ①-5 警察・補導センター等関係諸機関との連携(生指)	活動計画の実施状況 ①-1 年７回リモートで生徒指導主事等による講話を行い、自己指導能力の育成に努めた。また、学年集会も各学期に実施した。 ①-2 各学期に１回、年間３回実施した。 ①-3 毎月20日の学校安全の日登校時に街頭指導を行った。交差点7か所）に教員が立ち、自転車、バイクの安全、マナー等の指導を行った。また、日直が校門に立ち登校マナー、挨拶、身だしなみ等の指導を行った。下校時には教頭、生徒指導主事等がバイクの出入り口に立ち一時停止、左右確認等の指導や学校周辺の巡視を行った。 ①-4 ４月に生徒指導課でバイク、正副担任で自転車の点検およびステッカーの確認を行った。１学期末に第１・２学年を対象に交通安全講話を実施した。また、阿北自動車教習所で第２学年を対象に原付安全実技講習会を実施した。ブレーキング、バランス走行を行い、指導助言を受けた。また交差点事故の実技検証を実施し個々のケースに学んだ。 ①-5 生指協等を通して阿波吉野川警察署、補導センターと定期的に情報交換し、内容を職員朝礼等で職員に連絡した。また問題行動の対応についても連携を図り、助言を指導へ生かした。			所見 校訓「自主創造」を体現したALPSの活動が、学校の空気を明るくリードした。生徒の生徒による生徒のための活動がいじめを予防した。 スクールカウンセラー便りをはじめ、関係者との丁寧な関わりが、問題の早期解決につながった。相談件数も大幅に増えた。 校則検討委員会の意志を引き継いだ生活委員会が活発に活動し、服装選択制をよりよく進めた。生徒からのアイディアを形にできた好例といえる。 生徒たちは、交通事故後の対応は、しっかりとできるようになってきている。しかし、ヘルメットの着用率をアップさせる主体的な取り組みに期待したい。	学校関係者の意見 阿波高祭など、校内で生徒と顔を合わす機会はもちろん、校外でも朝見かける阿波高生からさわやかな挨拶を受けることがあり、基本的な生活習慣が身についていると思う。 ヘルメット着用率が目標を下回った点や交通安全指導の一部に改善の余地が見られる。生徒会や生活委員会が自主的な活動を展開し、服装選択制など校則の見直しや生活指導が適切に行われたことは評価に値する。今後は、さらなる交通安全意識の浸透と、自己管理能力の向上を目指した教育を強化し、生徒が自ら規律を守る文化の定着を目指す必要があると思う。	①-1学期に一度は、生徒指導だよりを発行し、各取り組みのねらいを周知する。 ①-2生徒それぞれの改善がすすめられるようリードする。 ①-3継続して実施する。 ①-4継続して実施する。 ①-5毎月いずれかの関係機関を訪問し、情報共有に努める。
	②-1保健室相談機能の有効活用（教育相談、養教） ②-2情報の共有化と支援プランづくり（教育相談） ②-3専門家による研修会の実施（教育相談） ②-4面談週間の設定（教育相談） ②-5スクールカウンセラーの派遣（教育相談）	②-1 養護教諭が生徒の悩み等を聴き、本人が希望する支援につなぐことができるように、担任や学年、保護者との連携に生かした。 ②-2 「支援を要する生徒」について、必要に応じて関係者会を開催し情報交換を行い、支援の方向性を検討した。 ②-3 ２学期末に「段階別不登校対応ハンドブック」を配布し、研修に変えた。また、課員が受けた講習を教職員に随時伝達している。なお、3/13 映画鑑賞による研修を実施予定である。 ②-4 年間３回教育相談週間を設定した。 ②-5 徳島県スクールカウンセラー等活用事業の配置により、スクールカウンセラーが年間90時間来校した。心理的な要因等により登校できない生徒や不安を抱える生徒、保護者へのカウンセリング、支援方法についての指導助言を得た。相談活動について、保護者・生徒宛にカウンセラー便りを配付した。				スクールカウンセラーや教育相談体制の活用が生徒・保護者双方に好評であり、相談件数の増加がその効果を示していると思う。	②-1継続して実施する。 ②-2継続して実施する。 ②-3継続して実施する。 ②-4継続して実施する。 ②-5継続して実施する。
	③-1 いじめ防止委員会の設置(生指) ③-2 いじめに関する教職員研修の実施(生指)	③-1 阿波高版いじめ防止委員会として、有志によるＡＬＰＳ（A-Leaders Project Society）を立ち上げた。生徒の想像力を活かしたアイディアをもとに、全校生徒を巻き込んだ活動を展開した。 ③-2 生徒指導関連の研修内容を報告したり、校内で発生した事案について研修したり、全教職員で研修に努めることができた。				生徒が自主的ないじめ対策として「ＡＬＰＳ」を立ち上げ、試行錯誤を繰り返しながら、全校活動として取り組まれていたのが、印象に残っている。これからも積極的な活動を期待する。 基本的生活習慣の確立に向けた取り組みでは、いじめ防止や個別相談体制が充実しており、いじめ解消率100%などの高評価が得られていると思う。	③ 継続できる形を模索する。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった

重点課題 5
「特別活動の活性化と豊かな人間性の育成」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 諸活動の活性化を図るとともに、豊かな人間性を育み、主体的に取り組む意欲と実践力を高めるための機会の確保に努める。	①生徒のHR活動満足度 85% （85%目標→85.1%） 生徒の学校行事満足度　90% （85%目標→91.4%） 新企画数　3以上 （３目標→３）	①生徒のHR活動満足度　92% 生徒の学校行事満足度　92% 新企画数　3	A	評定 A	A	②部活動の組織改革を行う。
	②部活動加入率　75%以上 （85%目標→73%）	②部活動加入率　76%	A			
	③文化祭肯定評価　90%以上 （85%目標→92.3%）	③文化祭肯定評価　94%	A			
（下位組織レベル） ①生徒会の活性化 ②部活動の充実・活性化 ③学校行事（学校祭等）の活性化	活動計画 ①-１生徒による新しい活動の企画・運営（特活） ①-２学校行事への主体的な参画（特活） ①-３社会貢献活動への企画・実施及び参加（特活）	活動計画の実施状況 ①-１　学校祭・体育祭・予餞会で新しい企画を実施した。 ①-２　生徒会、部活動、各種専門委員会が学校祭・球技大会・予餞会の計画・準備・運営を行い主体的な役割を担った。 ①-３　校外での様々なボランティア活動に多くの生徒が参加した。		所見 阿波高祭や球技大会など、活発な活動が行えた。様々な場面で生徒会、部活動、専門委員会が責任を持って役割を行い、生徒たちの意識の高さを実感することができた。	学校関係者の意見 HR活動満足度92%は大変高いと思う。生徒が考え、計画し、実行して満足度が上がっているのだと思う。	①-１継続して実施する。 ①-２継続して実施する。 ①-３継続して実施する。
	②-１顧問と生徒、保護者との良好な人間関係づくり（部活動顧問） ②-２部活動顧問会議の開催と意見交換（部活動顧問） ②-３管理職への報告・連絡・相談の徹底（部活動顧問） ②-４部活動のスリム化（特活） ②-５活動及び結果等の広報活動（部活動顧問）	②-１　生徒の主体性を重視し、保護者の協力のもと活動した。 ②-２　４月と１２月に部活動顧問会議を開催し、体罰禁止、熱中症対策、感染症対策の徹底を確認し、活動上の問題点等の情報交換を行った。 ②-３　怪我の発生や運営上の問題について報告の徹底を確認した。 ②-４　新たな組織作りを決定した。 ②-５　ホームページに大会結果や活動状況を掲載し、中学生体験入学での部活動体験や見学を行った。			生徒が主体となって様々な活動ができていることは好ましいと思う。保護者の協力も得られ、良い人間関係ができていると思う。 部活動については、生徒数の減少等により、今後活動が難しくなってくると思う。	②-１継続して実施する。 ②-２継続して実施する。 ②-３継続して実施する。 ②-４継続して実施する。 ②-５継続して実施する。
	③　生徒の主体的な活動支援（特活）	③　生徒会や専門委員会において、生徒からの企画発案を促した。			特別活動における阿波高生の取組は、生徒の高い満足度と活発な活動が特徴だと思う。生徒会が積極的に提案し、新しいアイデアを実行に移す文化が醸成されている点は今後も強化すべきポイントで、個々の人間性や協調性をさらに高めることが期待される。	③　継続して実施する。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった

重点課題 6
「環境教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 校内外の環境美化と、さまざまな課題解決学習を推進し、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に寄与する実践力の育成を図る。 （下位組織レベル） ①衛生・美化意識の高揚 ②環境教育・消費者教育の推進 ③防災教育の充実 ④健康意識の高揚と啓発活動の充実 ⑤食育の推進	①清掃活動への積極的な取り組み　90%以上 （90%以上目標→教職員による評価89.3% 生徒による自己評価93.4%）	①清掃活動への積極的な取り組み 教職員による評価　96.7% 生徒による自己評価　93.3%	A	評定 B	B	
	②地域清掃活動の各回参加者数　170人以上 （160人以上目標→平均195名）	②地域清掃活動の各回参加者数　平均183名（2学期末時点）	A			
	③生徒の防災意識度　75%以上 （75%以上目標→69.6%）	③生徒の防災意識度　72.0%	B			
	④生徒の朝食摂取率　93%以上 （93%以上目標→90.7%）	④生徒の朝食摂取率　91.7%	B			
	⑤生徒の野菜摂取率　80%以上 （80%以上目標→84.0%）	⑤生徒の野菜摂取率　82.2%	B			
	活動計画	活動計画の実施状況		所見	学校関係者の意見	
	①-1 日常の清掃活動の徹底（環境・厚生） ①-2 教室等のゴミ分別の徹底（環境・厚生） ①-3 一斉大掃除の計画的実施（環境・厚生）	①-1 ２か月ごとに清掃目標を決め、美化委員からクラスに清掃活動への積極的な取り組みを呼び掛けた。 ①-2 美化委員が毎日、教室のゴミの分別状況を確認して表に記入し、分別を呼び掛けた。環境委員が月末にペットボトルのキャップを回収し、地元の事業所の協力を得てワクチンの購入活動につなげた。資源ゴミとして古紙と段ボールを集めて業者に回収してもらい、交換した再生紙トイレットペーパーを校内で使用している。 ①-3 学期末や学校行事の前の大掃除では、時間を有効に活用し、窓拭きやゴミ箱洗いなどにも熱心に取り組んだ。		南館の校舎やトイレの工事が続く中、教職員と生徒が一緒に工夫しながら清掃に取り組んだ。 地域の清掃活動や消費者教育、エシカル消費教育を通じて、生徒が地元とのつながりを感じることができた。防災教育・活動についても、地域と連携しながら進めていく必要がある。 がん検診メッセージカード事業を通して、生徒は命と健康について考えるとともに、学校保健委員会では、保護者や家庭に分かりやすい学習の場を提供した。生徒の聴くことや、取り組むべき課題について、保健委員会で理解が深まったり、充実したりすることで、保健教育ができるよう考えていきたい。	校舎内外の清掃が行き届いている。 学校内や地域における清掃活動については、昨年同様、非常に高い衛生・美化意識の高揚が図られていると感じる。 環境教育では清掃活動や地域清掃イベントを通じて、生徒の衛生意識と地域連携が向上している。生徒の清掃参加率や地域イベント参加者数は目標を上回り、教職員と連携した取り組みが成果を上げていると思う。 清掃活動への取組の評価が大変高いと感じた。自分たちの環境を自分たちで守る活動がなされていると思う。	①-1 継続して実施する。 ①-2 ペットボトルキャップ回収の結果報告をし、啓発を続ける。 ①-3 清掃用具の整備と補充により、継続して実施する。
	②-1 地域清掃活動の充実によるとくしまＧＸスクールの推進（環境・厚生） ②-2 教科間の連携による消費者教育（環境・厚生）	②-1 5/23、10/4、12/12に地域の清掃活動を実施した。美化委員、環境委員の他、個人または部活動単位で多くの生徒が参加した。校内の草取りや落ち葉の清掃も実施し、ゴミの分別活動も行った。 ②-2 公民科を中心に、消費者教育を実施した。7/16には３年生を対象に、消費者情報センターの猪上翔太氏による講演「成年年齢引き下げと契約」を実施した。生徒は、「契約」についての正しい知識やルールについて学んだ。エシカル消費教育では、身近な防災対策について学ぶため、7/16に「阿波高オリジナル携帯myトイレを作ってみよう」講座を実施し、学校祭の来校者に手作りの携帯トイレやエコたわしを配付した。				②-1 地域清掃活動の実施時期と回数を見直し、実施を継続する。 ②-2 各教科の学習内容と連動しながら継続して実施する。
	③-1 学校防災計画の作成と職員への周知（環境・厚生） ③-2 防災避難訓練等の効果的な実施（環境・厚生）	③-1 学校防災計画を作成し、職員に周知した。 ③-2 5/1実施予定であった、かきはらこども園、柿原小学校との合同避難訓練は、雨天のため本校のみの実施となった。体育館にて吉野地区の浸水被害を想定した防災講話を聞き、各HRでの防災ビデオ学習を実施した。			防災活動などについて、積極的に取組を行っているにもかかわらず、評価に繋がらず、残念だ。自然災害はいずれも近年、頻発化、甚大化しており、生徒への啓発など更なる取組をお願いする。	③-1 継続して実施する。 ③-2 生徒の防災意識を高め、地域の避難所として役割を果たせるよう、近隣の学校等と連携した訓練を実施する。
	④-1 心肺蘇生法・食物アレルギーに関する講習会の実施（環境・厚生） ④-2 「保健だより」の効果的な活用（環境・厚生） ④-3 厚生委員会活動の活性化（環境・厚生） ④-4 保護者や関係機関との連携（環境・厚生） ④-5 学校保健委員会の充実と結果の活用（環境・厚生）	④-1 5/17 徳島中央広域連合中消防署から講師を招聘し、職員を対象に、心肺蘇生法（ＡＥＤ）・エピペン講習会を実施した。 ④-2 保健だよりを教室に掲示する際、ＨＲで厚生委員が内容説明を行った。毎月の保健だよりはホームページにも掲載し、夏休み号は三者面談で全員に配付した。 ④-3 吉野川保健所と連携し、阿波高祭保健展を開催し、厚生委員が健康のために心がけていることやよく食べるおやつとその消費カロリーについての展示等を行った。また、健康診断の補助、体育祭の救護活動、加湿器の清掃活動に取り組み、健康管理や適切な教室環境の維持に対する意識の向上に努めた。 ④-4 12/12 むつみホスピタル副院長・看護部長 郡利江氏と、ＡＷＡがん対策募金 三宅正子氏を招聘し、１年生を対象に「生活習慣とがん」「私は生きています。」と題した講義と、がん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施した。 ④-5 12/4 学校保健委員会を開催した。学校医１名、学校歯科医２名、学校薬剤師１名、ＰＴＡ家庭教育研修部３名の参加を得て、生徒の健康保持増進のための取組について協議した。生活習慣改善や健康診断の事後措置、感染症対策について指導助言を得た。			朝食摂取率は目標評価指標なる達して いないため、さらに啓発が必要だ。 消費者教育や食育の実践について、エシカル消費やフードロスに関する取り組みが進んでおり、生徒の実生活への応用が見られる。 がん検診を勧めるメッセージカードの作成を実施したことで、自分の命を大切にするという自覚もできたと思う。	④-1 継続して実施する。 ④-2 朝食摂取率向上につなげる内容を取り上げ、継続して実施する。 ④-3 食事と健康の関係について重点を置いたテーマを設定し、継続して実施する。 ④-4 継続して実施する。 ④-5 学校三師と連携した健康教育を実施する。
	⑤「食に関する指導の全体計画」の組織的な実施（食育リーダー）	⑤ 学校全体で食育が推進できるよう、食育全体計画を作成した。学校祭では、３年生がクラスごとに食品バザーを実施し、多くの来校者に食品を提供し、食を通じて人とつながる大切さを学んだ。また、とくしまGXスクール掲示板を活用し、フードロス問題に関する資料を紹介した。				⑤-1 食育に関する具体的な資料を提示し、家庭での話し合いにつなげる。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった

重点課題 7
「開かれた学校づくりの推進」
＊「評価指標」の（　　）内は、昨年度の目標→実績

自己評価					学校関係者評価	今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価			総合評価（評定）	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
（全体レベル） 積極的に情報発信を行うと共に地域と密接に連携を図りながら魅力的な学校づくりを推進する。 （下位組織レベル） ①魅力ある学校づくり ②積極的な情報発信 ③広報活動の充実	①阿波高校への満足度　90％以上 （90％以上→生徒82.9％、保護者91.7％）	①阿波高校に入学して（させて）良かったと「思う」、「やや思う」の合計 生徒91.8％、保護者92.9％	A	評定 A	A	
	②本校Webサイト更新回数　年間80回以上 （年間70回以上→91回）	②本校Webサイト更新回数　年間123回（1月23日現在））	A			
	③学校説明等訪問中学校　10校以上 （10校以上目標→10校）	③学校説明等訪問中学校　10校	B			
	活動計画	活動計画の実施状況		所見	学校関係者の意見	
	①-1 学校教育活動全般及び部活動の充実（教頭） ①-2 学校運営協議会による魅力化の推進（教頭）	①-1　学校祭やオンラインでの全校集会など各種行事も順調に実施できた。南校舎改修も３月末までに完了予定で、南校舎の新しいトイレも完成し、生徒も学校生活にほぼ満足していると考えられる。引き続き、安心・安全な教育環境の整備に取り組んでいきたい。 ①-2　学校運営協議会で学校運営方針等について承認を得るとともに、委員の方に核となっていただき、阿波市・上板町、地域の方々との連携を深めた。更に魅力的な学校づくりを推進していきたい。		学校評価アンケートの阿波高校に入学して(させて)良かったと思いますか。」の問いに対して、生徒、保護者共に肯定的な回答が90％以上あり、特に生徒の満足度が上昇した。生徒、保護者共に本校の今年度の取組にほぼ満足しているものと考えている。次年度も、今年度の計画を更に発展させつつ実施していきたい。	阿波高校は、積極的な情報発信と地域連携を通じて、開かれた学校づくりを進めていると思う。学校満足度は保護者、生徒ともに90％以上の高評価を受けており、学校説明会や体験入学の参加者数も着実に増加している。	①保護者、生徒ともに学校満足度が高評価となるように、更に地元地域や自治体と連携し、校外活動の機会を組織的に積極的に推進していく。
	②　本校Webサイトの充実（情報・図書課）	②　タブレット活用授業や学校祭、各種コンクール、部活動の大会記録、ALPS（いじめ防止委員会）の活動内容、オーストラリアへの海外語学研修など生徒の活動の様子をホームページで発信し、目標を達成できた。教育活動の成果や生徒の活動を発信する機会を更に増やしていきたい。			本校Webサイトの更新頻度が高く、生徒の活動や教育成果を広く発信している点も評価できる。	②魅力的な学校づくり推進のため、学校ホームページ、さくら連絡網等様々なツールで更に情報発信していく。
	③-1 中学校での学校説明会の実施（教務課） ③-2 学校公開（授業等）の実施（教務課）	③-1　依頼のあった９中学校(山川中学校については、日程が合わず、今年度の説明会には参加できなかった。)の進学説明会等に校長と教務主任が出向き、本校教育の概要等を説明した。また、中学校への個別訪問を実施し、中学校長に本校教育の概要等を説明した。 ③-2　８月の中学校体験入学には288名の申し込みがあり、授業体験および部活動体験を実施した。また、11月の学校公開には中学生とその保護者、在校生の保護者計10名が来校し、授業や施設の見学を行った。			校長先生が率先して周辺校ともコミュニケーションを取り、阿波高校に対するイメージが大変良い。 南校舎の改修による施設の充実や、学校運営協議会を通じた地域との連携が進んでおり、今後も地域のニーズを反映させた柔軟な学校運営が求められる。より多くの中学校との交流を通じて、本校の魅力を広げる取り組みを継続してもらいたい。	③-1 進学説明会で阿波高校生の幅広い取り組みを紹介し、学校の魅力をアピールしていく。 ③-2 中学生体験入学における学校説明の内容の充実。学校公開の案内をさくら連絡網で発信することで、保護者の参加を促す。

＊「評定」の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:あまり達成できなかった　D:全く達成できなかった